

透析開始手技における 清潔手技の再考 ～ルミテスターを使用して～

医療法人社団スマイル 博愛クリニック
岡本彩那, 沖永鉄治, 重藤涼介, 寺尾佳介,
山平満浩, 松下剛史, 玉置貴志, 高杉啓一郎



背景

- 皮膚かぶれ等の理由により、
穿刺部消毒に、弱酸性水を使用している。
- 透析開始・終了等の業務繁忙期、ポケットに
ディスプレイ手袋(以下、手袋)を
入れるケースがある。
→手袋装着後に、手指消毒用アルコールを使用する。

目的

- 穿刺部消毒に用いる弱酸性水の効果
- 手袋に付着する表在菌数の変化
及びアルコール消毒の効果

対象及び方法

■ルミテスター[®]PD-30(以下、ルミテスター)を用いて
表在菌数を測定した。

□穿刺部消毒

- 水洗い前
- 水洗い後
- 弱酸性水
- 70%イソプロパノール液
- 10%ポピドンヨード

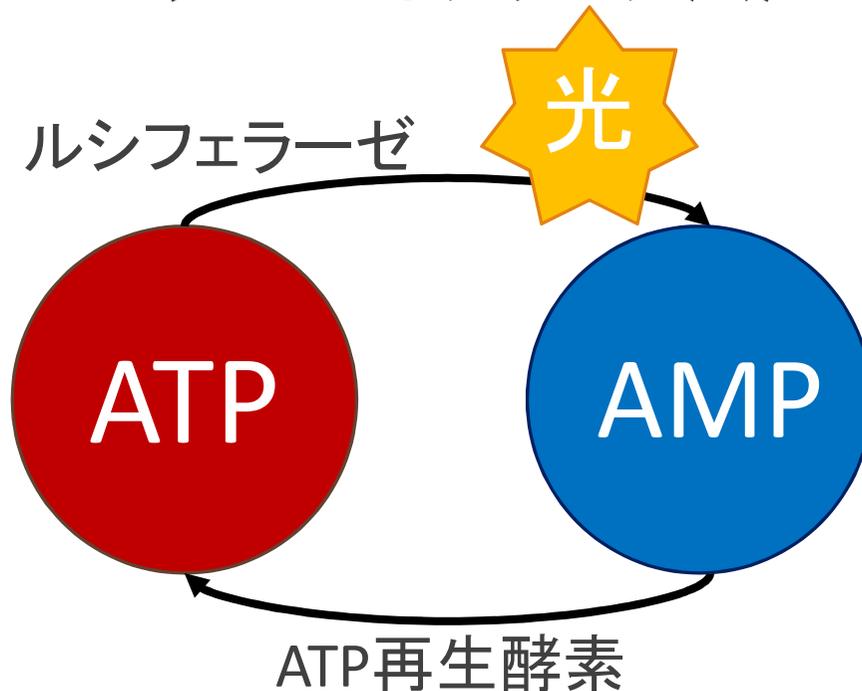
□手袋

- 箱から出した直後
- ポケットに30分間入れたもの
- ポケットに60分間入れたもの
- それぞれ手指消毒用
アルコールの噴霧後

測定原理

- ATP+AMP測定で表在菌数を測定している。

〈ATPサイクリング法〉



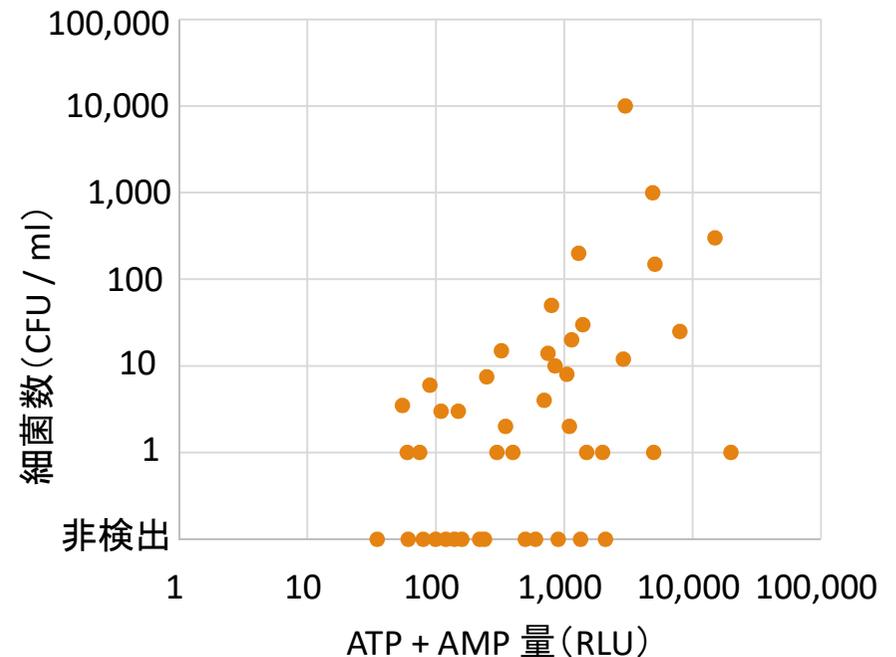
ATP:あらゆる生物が持つ
エネルギー代謝に必須の
物質(アデノシン三リン酸)

AMP:加熱や発酵、酸素反応等
によりATPが変化した物質
(アデノシン一リン酸)

測定原理

■ ATP+AMP拭き取り検査

- ATPとAMPの量を測定する検査のこと。
- 医療現場の汚れ(血液、体液、排泄物、微生物など)の中にはATPとAMPが存在する。
- 多ければ洗浄不足、少なければ洗浄良好と判定。



ATP+AMP拭き取り検査

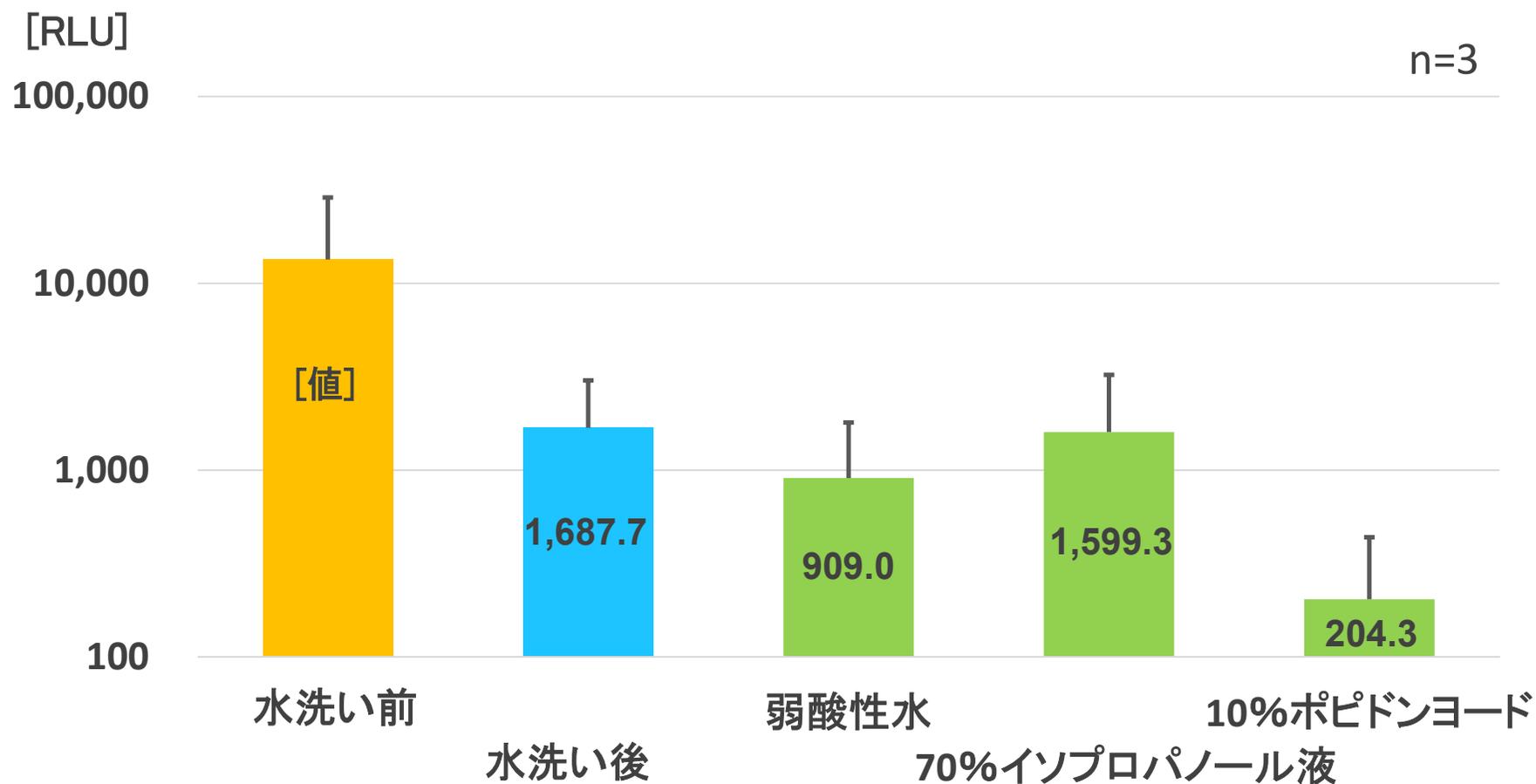
■使用方法

1. ルシパックPenの綿棒を水道水で湿らせて検査対象を拭き取る。
2. 綿棒ホルダーを本体に戻し、ワンプッシュ。チューブ中間の液を底に振り落とし、粉末の試薬を溶かす。
3. ルシパックPenをルミテスターの測定室に入れて測定する。
※10秒で測定可能



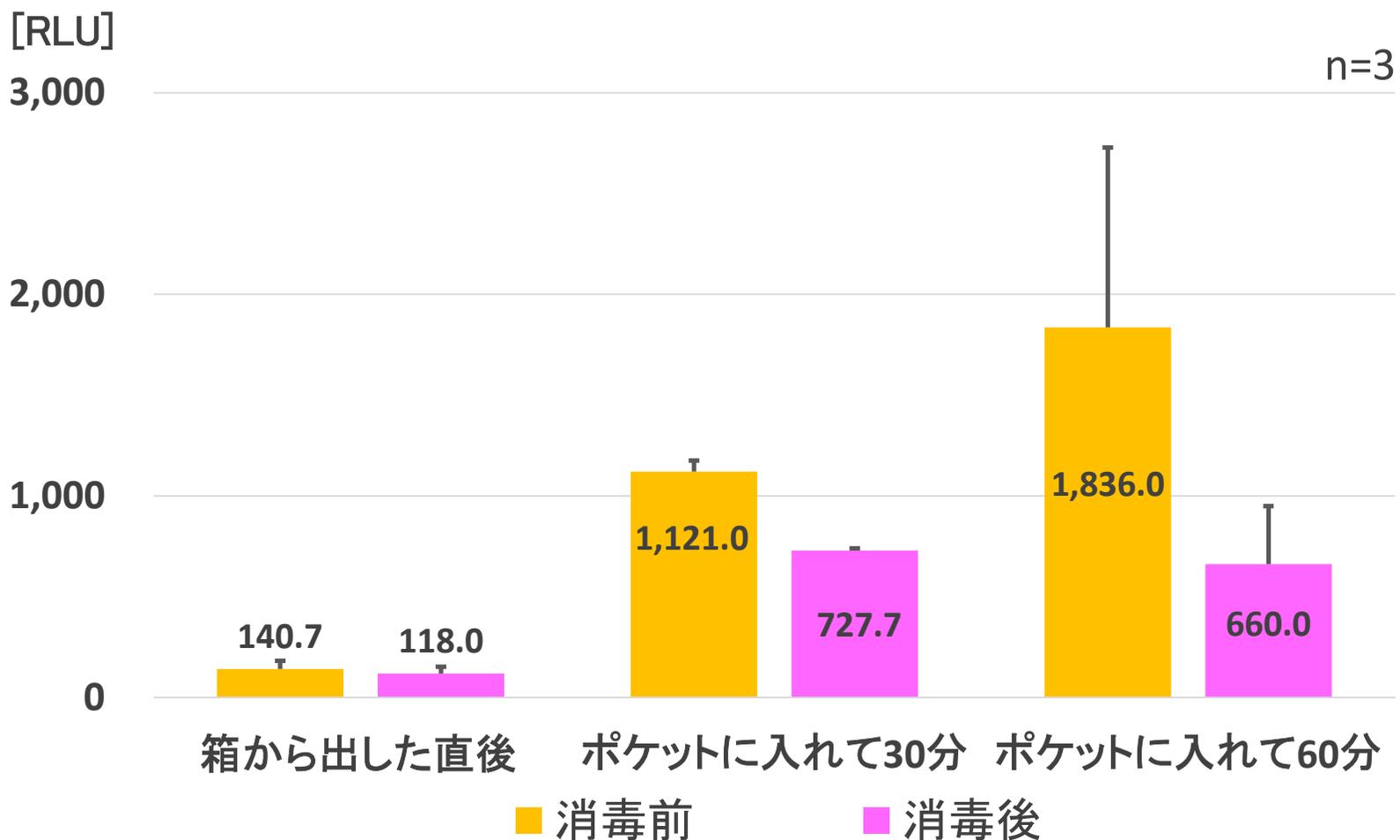
結果

穿刺部消毒における細菌数



結果

アルコール消毒前後における細菌数



考察

■ 穿刺部消毒

- 水洗いでの表在菌数の減少を再確認出来た。
- 穿刺部消毒に用いるには、
弱酸性水も十分効果があるといえる。

考察

■手袋

- 時間経過と共に表在菌数が増加したため、可能な限り箱から出した直後の使用が望ましいといえる。
- 手袋装着後に手指消毒用アルコールの使用を検討している。

結語

- 最も表在菌数が減少したのはポピドンヨードであったが、穿刺部消毒に用いるには、弱酸性水も十分な効果があった。
- 手袋に付着した表在菌数は、時間経過と共に増加し、それぞれアルコール消毒後は減少したため、効果があった。

**中国腎不全研究会
COI開示**

**筆頭発表者名
岡本 彩那**

**演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。**